

📷 福島県初！外航クルーズ船 「リビエラ」寄港



📍 小名浜港 📅 4/27(日)

＼全長238m！迫力満点のクルーズ船寄港／

福島県初となる外航クルーズ船が寄港し、その姿を一目見ようと大勢の市民が小名浜港を訪れました。

沖合から客船が見え始めると、吹奏楽やフラダンスなどの歓迎イベントが行われ、外国人を中心とした約1100人の乗客を出迎えました。下船した乗客は白水阿弥陀堂などを散策するツアーに出かけました。

📷 植田町本町通りにて 歩行者天国を開催



📍 植田町 📅 5/5(月)

＼子どもを中心に多くの市民で大賑わい／

うえだ商店会による歩行者天国が開催されました。沿道には飲食店を中心に多数の露店が出店したほか、勿来工業高校の工作体験など、地元の学校や企業がブースを設けました。また、特設ステージでは東田保育園児による和太鼓演奏や地元の学校による吹奏楽演奏などが行われ、多くの来場者に練習の成果を披露しました。



■写真 植田公民館における結婚式
〔昭和42（1967）年3月 若松リナ子氏提供〕

昭和20年代、戦後の世情が落ち着くにつれて従来の派手な婚礼を簡素化させる生活改善運動の一環として「小名浜（後に磐城）地区結婚簡素化（後に合理化）推進委員会」が、昭和27（1952）年11月に設置されました。花嫁衣裳の貸し出しや公民館を利用した式を推奨し、1年目は14組が誕生しました。

昭和30年から始まった高度経済成長は豊かさをもたらし華美化を促しましたが、一方で若者は伝統的な付き合いよりも新しい生活スタイルを求めました。

昭和30年代から40年代にかけて、結婚式のスタイルは変化していきます。会費制は敬遠される一方、新たに平、磐城（小名浜）などの各市に誕生した市民会館では裁量幅が広く結婚式の備えがそろっていたことから市民会館結婚式に移行しました。しかし、これも一時のことでした。昭和38年を皮切りに、市内で結婚披露宴を専門に備えた民間施設が相次いで誕生すると、公的施設における結婚式は姿を消していききました。

（いわき地域学會 小宅幸二）

簡素化の公民館結婚式

タイルに価値を求めるようになり、会費制により安価で披露宴を行うという動きが出てきます。

また「新生活運動」（生活の合理化や節約をめざす運動）を推進する団体では、必ずといっていいほど、冠婚葬祭の簡素化を運動目標とし、公民館活動の一端として位置づけられました。

こうした動きは、簡素な結婚式をめざした公民館方式（会費制、衣装貸し出しなど）と呼ばれました。家単位の結婚でない、しかも家に頼らないため手持ちの費用で、という現実にも照らし合わせた、個人主体の結婚を象徴するスタイルとして定着していきます。

写真が語る「いわき」の歴史

